事業報告書(法人)

令和５年度法人本部事業報告書

（１）総　括

〔令和５年度事業計画の基本並びに重点方針に係る総括〕

①Covid-19新型コロナウィルス対策を中心とした感染対策について

令和５年度も変わらず常時厳戒態勢を継続し、各所の清掃と消毒を徹底、特別養護老人ホームにおいてはご家族に協力を得て面会制限を実施する傍ら、短期入所や通所介護事業においては抗原検査の励行と体調確認を厳格に行って、感染防止に努めてきた。

職員の家族内感染は間歇的に発生したが、園内では必要に応じ感染対策委員会を都度開催し、現状確認と時宜を得た対策を講じてきた。若干の発生事案はあったものの、大過なく推移した。

大分県は、Ｏ－１５７やノロウィルス、サルモネラなど感染性胃腸炎の発生率が高い自治体であり、今後も引き続き感染対策に万全を期して参りたい。

②人員確保について

福祉業界のみならず、農業等の第一次産業、製造業の第２次産業、小売業の第３次産業、そして情報通信業等の第４次産業とあらゆる分野で人手不足が深刻化している。今後の決め手は、外国人就労と高齢者雇用とまで云われている昨今である。

これを踏まえ、愛泉会が対策として取り組んできたのは、

１　応募のあった就職希望者には、一見無謀かとも思われるが、特段の瑕疵がない限り、全員採用の姿勢で臨む。

２　職員の処遇改善と維持向上に注力し、処遇改善加算については愛泉会手出しを加えて受領額以上を全職員に全額配分、また物価高騰給付金を別途支給して情和園への愛着と帰属意識を高める。よって、新規の応募者増加の誘因とする。

３　”辞めたくなくなる”職場を目指し、各職員とのコミュニケーションに重点を置き、問題があれば都度、迅速に解決するよう努める。

４　外国人技能実習生や特定技能外国人の雇用を継続し、安定したマンパワーの確保を図る。

以上に取り組んできた結果、移住や止むに止まれぬ家庭の事情を除けば、退職者はほとんど無く、現有勢力の維持と拡充ができていると思われる。

③提供するサービスの質を向上させる取り組み

この成否は、一重に職員のモチベーションと資質の向上を図るこ

とに尽きるかと思われる。
学びの糧である研修については、研修委員会が綿密な年間計画を立て、人権保障からマナー向上、感染対策まで多方面から職員の意識向上に精励している。
また、個々人の外部研修参加については、基本的に参加意欲のある職員は希望の研修会に全員参加させるという姿勢で臨んでいることに加え、公費出張扱い、研修費の負担など法人としての助成対策を継続している。今後も、職員一人ひとりの自己啓発を応援していきたい。

④ＤＸ化（デジタルトランスフォーメーション）について

過去５年間はデジタルを使った業務改善(=ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾄﾗﾝｽﾌｫｰﾒｰｼｮﾝ)に傾注してきた。
ＩＴ(ｲﾝﾌｫﾒｰｼｮﾝﾃｸﾉﾛｼﾞｰ) により、全事業所にWifi環境を整え、施設内ＬＡＮﾈｯﾄﾜｰｸを張り巡らし、ＩＣＴ（ｲﾝﾌｫﾒｰｼｮﾝｱﾝﾄﾞｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝﾃｸﾉﾛｼﾞｰ）を使って、全事業所型ソフトウェアの導入や最先端のｾﾝｻｰ付き介護ベッドの配備を進めてきた。
特にｾﾝｻｰ付き介護ベッドの導入については、特養とショートステイに、令和４年度の５２台に続き令和５年度は残りの４８台の導入が認められ、国庫補助を満額受給することができた。総事業費は、合計￥25,731,860となった。
これらを通じて、業務時間の短縮による業務効率化と働き方改革、コストの削減が可能になったことは論を待たない。
更に今後は、煩雑な業務をＡＩ(ｱｰﾃﾌｨｼｬﾙｲﾝﾃﾘｼﾞｪﾝｽ＝機械学習)を使って省力化しようとする社会に大きく移行しており、愛泉会においても、この潮流に乗り遅れることのないよう取り組んで行く。

（２）令和５年度事業所別の利用状況について

詳細は、添付別紙「直近３年間の利用人員対比表」参照。下段に、全体を俯瞰した「評価と対策」を併せて記載している。
全体としてコロナ禍とご利用者の一層の高齢化により、事業運営の厳しさが続いている。特に、特別養護老人ホームは懸命な入所者確保に努めているが、年間の死亡退所者数が過去の安定期の約３倍に及び、利用者の確保に汲々とした状態が続いている。これに臆することなく今後も積極的な働きかけを続け、地域やご家族に頼られる存在を目指して参りたい。

（３）専門委員会組織とその活動について

各専門委員会の令和５年度事業報告は添付別紙の通り。

直近3年間の事業所別延べ利用人員対比表（令和3～令和5年度）

社会福祉法人愛泉会

事業所名	延べ利用人員（人）			対前年度比	対前年度比伸び率（%）
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	増　減（人）	
特別養護老人ホーム	25,943	30,174	30,073	△ 101	特養＋短期
短 期 入 所	0	1,526	1,687	161	0.2%
通所1課（情和園デイ）	8,996	9,227	8,460	△ 767	−8.3%
〃　サテライト青春塾	3,594	3,582	4,083	501	14.0%
2課（ハッピー）	2,162	1,859	1,752	△ 107	−5.8%
訪 問 看 護	2,518	1,955	91	4月のみ稼働	−
居宅介護支援	2,016	1,523	1,320	△ 203	−13.3%
（合　計）	45,229	49,846	47,466	△ 2,380	−4.8%
在宅介護支援センター					
実態把握（まちかど相談所含む）	感染予防休止	感染予防休止	感染予防休止	−	−
緊急通報（登録者数）	7	6	4	△ 2	−33.3%
お元気コール	96	63	58	△ 5	−7.9%
ハッピーいきいき塾（久保地区）（回数）	感染予防休止	5	12	5	−
ハッピーいきいき塾（久保地区）（人数）	感染予防休止	39	79	39	−
（合　計）	103	113	153	40	35.4%

「評価と対策」

１．母体である特別養護老人ホームは、要介護３以上に入居が制限されて以来、死亡退所者が年間３２名（令和５年度実績）と、１か月に約３名弱、３か月で１０名に及ぶこともある状態で利用者の確保に汲々としてきた。打開策として、入退所担当のソーシャルワーカーを１名から２名に増員し事態の収拾を図っており、５月末には定員９０名に対し８９名入居（99%）まで回復する見込みである。

２．ショートステイは”おもてなし”が好評で、実利用者は昨年の116人から209人と８０％の増、延べ利用者数も1か月あたり13人の増加となった。今後もこの姿勢を堅持する必要がある。

３．デイサービスを見ると、ハニカム青春塾は１４％の利用者増で好調である。”元気になりたい”高齢者層の厚さを伺える。提供メニューの磨き上げがご利用者の誘因となろう。

　これに比して、介護度の高い高齢者を対象とする通所1課と認知症型ハッピーはご利用者の入院、施設入所等による減員に新規利用者の獲得が追いつかず、８．３％～５．８％のマイナスとなった。もう一段の努力が求められる。

４．ケアプランによる在宅高齢者の支援を行う介護保険サービスセンター情和園は、体調不良による職員の減から取扱件数が13%余り減少したが、増員によってテコ入れを行ったところで、事態の収拾が図られつつある。100％の稼働を目指したい。ケアプランセンターは、庄内地域においては情和園と由布市社会福祉協議会の2カ所のみが運営する逼迫状況である。

　総じて、①新規利用者の獲得にむけた取り組みと、②ワンストップで福祉サービスを提供する総合型福祉事業所として、各事業所の情報共有とご利用者の心身状況に合わせた利用事業所の調整が今後益々必要になってくると思われる。